

認定 NPO 法人 ブリッジフォースマイル

〒100-8228 東京都千代田区大手町 2-6-4

株式会社バソナグループ内

TEL 03-6842-6766 FAX 03-6893-6118

## NPO 法人ブリッジフォースマイルが、 全国の児童養護施設 596 カ所に暮らす高校生へアンケート調査を実施。

タイガーマスク運動、ドラマ『明日、ママがいない』で話題になった児童養護施設。  
だが果たして、そこで暮らす子ども達の実態を人々は知っているのだろうか？

児童養護施設に暮らす高校生 1,079 人 が回答したアンケート調査で明らかになった事実。

私たちの認識を翻した、一般高校生より高い施設高校生の自己肯定感。

そして、全国進学率 70.9% に対し、21.9% と低い施設高校生の進学率。この“希望格差”を埋めるために、  
私たち大人はランドセルを贈る以外に何ができるのか？タイガーマスク運動から 4 年経った今、もう一度  
考える時がきたのではないだろうか。

認定 NPO 法人ブリッジフォースマイルでは、全国 596 カ所の児童養護施設にアンケート調査を行いました。「施設で生活する高校生アンケート」では高校生本人に、「社会的自立に向けた支援に関する調査」では、施設職員にそれぞれ回答をお願いしました。アンケート調査から、以下の事がわかりました。

「2014 年度施設で生活する高校生アンケート」調査結果（全国 596 施設に向け実施。有効回答数 173 施設、高校生 1,079 名）

### ■一般高校生より高い自己肯定感。13 項目中 10 項目が上回る結果。

このアンケートでは、財団法人日本青少年研究所が行った「高校生の心と身体の健康に関する調査」「中学生・高校生の生活と意識」の調査結果から、自己肯定感に関する同質問を施設高校生に行い比較した。

「私は価値のある人間である」「自分が優秀だと思う」「私は努力すれば大体のことが出来る」「私ができることはいっぱいある」「感情に走らず、仕事や勉強に集中できる」「悲しい時や辛い時も落ち込まない」「怒った時や気分が悪い時でも自分をコントロールできる」「どんなに失敗しても落ち込まない」「自分の希望はいつか叶うと思う」「目標達成に失敗してもすぐ立ち直ることができる」の 10 項目で、一般高校生より施設の高校生の方が値を上回った。特に差が大きかったのは、「私は努力すれば大体のことが出来る」一般高校生 44%：施設高校生 63%、「どんなに失敗しても落ち込まない」一般高校生 22%：施設高校生 36%、「私は価値のある人間である」一般高校生 36%：施設高校生 46%であった。

一般高校生が値を上回った 3 項目は、「私は人柄がよいと思う」「私は大体の場合、人とうまく協力できる」「私は辛いことがあっても乗り越えられる」であった。

## ■高校卒業後に予想する進路は、進学 27.9%、就職 52.2%。

卒業後に「予想」する進路は、進学が 27.9%、就職 52.2%、わからない 19.9%となった。同時に「希望」する進路を聞いたところ、進学が 36.2%、就職が 49.8%、わからないが 14%となった。予想する進路と希望する進路の違いについて自由記述では、「お金に関する問題で進学が厳しい。」という意見が多くみられた。

また、学年別の比較では男女ともに学年が上がるにつれて「予想」「希望」進路とも就職が増えている。希望職種のある高校生と、ない高校生の希望進路について比較したところ、希望職種のない高校生の進学希望の割合が低くなっている。退所後、生活費と学費を自分で工面しなければならない施設の高校生にとって、「将来の具体的な夢がないからとりあえず進学」という考えは、現実味を帯びないようである。

## ■卒業までの目標貯金額は 50 万円。目的は退所後の生活費。

施設の高校生たちは、卒業と同時に 18 歳で施設を退所しなくてはならない。退所までの貯金の目標金額を問うたところ、50 万円が 217 名と一番多かった。一人暮らしにかかる初期費用は、一般的に最低 50 万円と言われている。施設高校生は、早くから職員と共に 18 歳での退所準備を始める。その過程で、多くの高校生が目標貯金額を 50 万円と自覚していくと考えられる。

しかし、実際の貯金金額は 25 万円以下が 527 名と 1 番多く、実際に 50 万円～100 万円の貯金をしている高校生は 53 名だった。貯金理由のトップは、「退所後の生活費」で 564 名と約半数が選択した。退所後、親を頼れない子どもが多い中、住居の準備や生活費のために貯金をしなくてはいけない、という意識も高く目標金額もはっきりしているが、現実には、なかなか思い通りにいかないようである。そんな状況の中で、さらに進学費をまかなわなければならないという、進学の実現の難しさが伺われる。

---

「2014 年度社会的自立に向けた支援に関する調査」調査結果（全国 596 施設に向け実施。有効回答数 173 施設）\*回答は職員。

## ■2013 年度退所者の進路の内訳は就職 70.8%、進学 21.9%

2013 年 3 月に施設を退所した子ども達の進路について、施設職員にアンケートを実施した。456 人の退所者のうち、就職 70.8%、進学 21.9%、無職 7.2%となった。文部科学省が行った調査によると 2013 年度の高校卒業者の進路内訳は、進学 70.9%、就職 18.6%、無職 4.5%となっており、一般の高校生の進学率約 7 割に対し、施設の高校生の進学率は約 2 割と、大きな開きがある。ここには、「高校生アンケート」でも明らかになったように、退所後の生活費と進学費を全て工面しなくてはならない施設高校生の厳しい金銭的事情があり、環境による希望格差が生じていると思われる。

## ■退所後に帰れる実家がある子どもは約半分 48%であった。

高校生の退所後の後ろ盾について、施設職員にアンケートを実施した。退所後、「帰れる実家（同居とは限らない）がある」高校生は 48%となり、半分以上が実家に帰れない状況が明らかになった。同時に「退所後、困った時に親に相談できるか」を、きいたところ、「相談できる」と答えた高校生は 45%となり、「帰れる実家がある」とほぼ同数となった。また、「施設以外に保

証人がいるか」の問いには、63%が「あてはまる」「ややあてはまる」だった。未成年の場合、賃貸契約など多くの契約に保証人が必要な事を考えると、子ども達の37%が、施設以外に保証人の当てがないというのは、かなり厳しい状況だと思われる。親に頼れない子ども達が、社会に一人で出て自立を迫られる状況に対し、困った時の相談先、保証人の問題は、まだまだ行政、コミュニティなどの力が必要である。

## ■東京都と東京都以外の施設の比較は、進学率は東京の方が高いが、

### 退所後の後ろ盾に関しては、地方の方が好条件との結果に。

退所者の進路、高校生の退所後の後ろ盾に関して、東京都と東京都以外の施設での比較を試みた。

東京都の施設の2013年度施設退所者の進路は、進学36%、就職52%、無職12%、に対し、東京都以外の施設は、進学20%、就職73%、無職7%と、進学率は東京都が16%上回っている。

高校生の退所後の後ろ盾に関しては、東京都よりも東京都以外の施設の方が好条件である、との結果が出た。「帰れる実家（同居とは限らない）がある」は、東京都が32.1%、東京都以外が51.0%と19%の開き、「退所後、困った時に親に相談できる」東京都が36.4%、東京都以外が46.0%、「施設以外に保証人がいる」は、東京都が37.6%に対し東京都以外が67.4%と、ここでは30%の差が出ている。

ブリッジフォースマイルでは、今後も、児童養護施設に対し、退所後の子どもたちへの自立支援、施設職員の働く環境、子どもたちの実態、という観点から、さらなる調査を続けていく所存です。

ご案内させていただきました2014年度調査結果の詳細は、ホームページ <http://www.b4s.jp> でも公開しております。ぜひ、ご覧下さい。

**\*本件へのお問い合わせ・取材のお申し込みは下記までお願いいたします**

**NPO 法人ブリッジフォースマイル 広報 植村 百合香 080-3316-2074 / [b4s.uemura@gmail.com](mailto:b4s.uemura@gmail.com)**